

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



今月号は「潮騒ジョブトレーニングセンター11周年フォーラム」の総特集となりました。潮騒JTCでは約1年間を掛けて企画を練り上げ、多彩な内容で毎年、晩秋に公開フォーラムを開いています。和太鼓やエイサーの演舞と専門家による講演、ダルクメッセージなど硬軟取り交ぜたプログラム構成で参加者の関心を集めています。今年は映像と生舞台での“潮騒版フォーチュンクッキー”実現と、最後のセンター長謝辞で家族修復にヒントを与える感動的な場面があり、前年を上回る素晴らしいフォーラムとなりました。

2016
12

2016 年を振り返って

～次女から家族問題で宿題を与えられる



早いもので今年も残りわずか、1年を振り返る時期となりました。老いゆく者の宿命かもしれませんが、年を取るごとに時間の流れが加速度を増しています。でも救いなのは、私達アディクトは実年齢とは別に回復をスタートさせてからの“クリーン年齢”を歩んでいることです。この時間の積み重ねこそが、世間の常識に縛られることなくアディクトにとって人生の希望へと繋がるという、私達が信じる神(ハイパーパワー)からの恵みなのです。私は来年3月でクリーン人生が14年目に入ります。その意味でいえば中学2、3年の、世間知らずの子供に過ぎません。なので私は今年老いを顧みずに思い切って、念願だった夜間高校での学びをスタートさせました。実年齢は古希を過ぎても、さほど違和感なく孫世代よりも若い子供達と机を並べています。秋には高校の文化祭で、なんと15歳のクラスメートに伍して「フォーチュンクッキー」を踊りました。これに刺激を受け、潮騒JTCの11周年フォーラムではプロの手を借りて、仲間達が多数参加した“潮騒版フォーチュンクッキー”の映像作品を作り上げ、上映して会場を沸かせました。映像の後には“生フォーチュンクッキー”のパフォーマンスにも挑戦し、私も学生服姿で練習の成果を披露しました。

今回の11周年フォーラムでは、私にとって心に刻む忘れられない場面がありました。前号でも触れた次女との再会です。娘から花束を手渡された時の深い感動は、とても言葉には表せません。こんな父親でも娘は「誇りに思う」と言ってくれました。同時に「苦しかったけど、私はグレなかった」と厳しい言葉も忘れられません。娘からすれば、私は憎まれて当然な父親です。今も返す言葉がありません。その私が今回、娘から大きな宿題を投げ掛けられたように思います。それはアディクトにとっての家族とは何か、自分が苦しめた家族とどう向き合えばいいのか、家族の修復はどこまで可能か—の難しい宿題です。自己矛盾かもしれませんが、過去の失敗を棚に上げて自分に都合のいいように棚卸ができるほど、家族の問題は簡単ではありません。「子は親を選べない」不条理は置くとして、肉親という血の繋がりはとても理屈で割り切れるものではありません。

それだけに娘に与えた深い心の傷を、私はどうすれば癒せるのだろうか、と考えあぐねています。今私に言える事があるとすれば、過去の罪深い過ちを生涯忘れずに日々、依存症の回復に励む新たな人生を歩み続け、その姿を時折家族に見てもらうしかありません。幸い依存症問題は、当事者家族の回復にもヒントを与えます。「共依存」という家族の病からの解放です。よく演歌に歌われる世界ですが、世話焼きを美德とするもたれ合いの風土は、長く日本の家族を縛ってきました。あたかもアルコール依存症の夫を、悲劇のヒロインよろしく妻が無意識に支えてしまうように、共依存は依存症の回復にとっては妨げでしかないので。人生の大半を任侠道に捧げた私ですから、この情緒をそう簡単には払しょくできません。今後も悩みながら、この困難な家族の問題と向き合っていきます。

(センター長 栗原 豊)

潮騒JTC 11周年フォーラム

潮騒ジョブトレーニングセンター
11周年フォーラム
スピリチュアル・コネクション【魂のつながり】～広げよう、潮騒の輪!!～
NPO法人・潮騒ジョブトレーニングセンター
保健福祉センター、茨城県潮来保健所、法務省水戸地方検察庁、
支援センター鹿行地区センター、ハローワーク水戸、
FMかしま、茨城新聞社、朝日新聞水戸支局、
東京新聞水戸支局、鹿島灘太鼓、他

NPO 法人・潮騒ジョブトレーニングセンター(潮騒JTC)は11月27日、鹿嶋市宮中の鹿嶋勤労文化会館ホールで11周年フォーラムを開きました。当日は雨模様にもかかわらず、入寮者やダルク関係者、家族会、支援者ら延べ400人を超える参加者がありました。今回は「スピリチュアル・コネクション(魂のつながり)～広げよう、潮騒の輪!!～」をテーマに、潮騒の活動に理解を示し、多方面から下支えしている地元支援者らに感謝の意を伝えようと、和太鼓やエイサーの演舞やアディクトの就労支援問題に詳しい専門家による講演、日本ダルクの近藤恒夫さんやマーシー(田代まさし)さんからのダルクメッセージなどで盛り上がり、更なる潮騒の発展と飛躍を誓い合いました。



▲フォーラム初参加でメッセージに立ってくれた栗原センター長の次女。その言葉は、厳しくも温かい眼差しにあふれていました。

▲潮騒フォーラムではすっかり馴染みの、首都圏ダルク連合と潮騒メンバーによるエイサー乱舞ステージ。会場の参加者を巻き込んで今年も盛り上がりました

午前10時からの開会行事では、今年もお世話になっている法務省水戸保護観察所や茨城県潮来保健所、鹿嶋市健康福祉部、秋元病院、潮騒家族会の関係者の皆様から潮騒の活動に期待を寄せるご挨拶を頂きました。この後当日プログラムに移り、まず地元支援者7人が登壇しての支援者リレーメッセージに移り、各立場からの意見発表がありました。発言者は ▼「鹿島灘太鼓」代表の島田正之様 ▼潮騒「猿田農場」地主の増古四郎様 ▼「潮騒俳壇」選考で俳人の桐本石見様 ▼アルコール依存症回復者の永山清(アノニマスネーム=恵一郎)様 ▼作業隊を支えるアトム電気社長の根本芳光様 ▼施設補修で尽力を頂く幸友住宅社長の谷田川茂徳様 ▼行政文書などでお世話になっている元鹿嶋市議の原田雅也様 —— でした。この中で増古様からは「荒地開墾では潮騒ジョブの持つマンパワーを実感させられた。農業に特化した就労支援が農業隊メンバーを大きく成長させ、今では地元集落でも一目置かれるまでになった」と地道な活動が地域の信頼を得る下地になっている事を力説してくれました。この後に潮騒太鼓連中が参加する鹿島灘太鼓の演舞があり、今年も勇壮華麗なステージが繰り広げられました。

午後1時からプロの手を借りて制作した映像作品の上映があり、プロモーション並みの高い完成度を感じさせました。今回は栗原センター長が学ぶ定時制高校での様子をスポットが当てられ、これに関連した入寮者の踊り

パフォーマンス(フォーチュンクッキー)が映像にまとめられ、会場の注目を集めました。上映後は、この映像から抜け出したようにセーラー服や学生服姿のメンバーがそのまま登場し、“生フォーチュンクッキー”の踊りで躍動しました。ステージ中央では学生服の栗原センター長も練習の成果を披露し、会場から惜しみない拍手を頂きました。

続く基調講演では、潮騒の就労支援活動に注目してくれている、お馴染みの宮永耕・東海大学健康科学部准教授が登壇し、自身が作成した豊富なデータを示して約一時間の講演をしてくれました。宮永氏は就労支援を含む包括的な潮騒の活動に注目し、その意義を客観的にとらえ返しながら、今後の方向性にヒントを与えてくれました。ダルクメッセージでは渋谷ダルクの坪倉洋一様、日本ダルク代表の近藤恒夫様、そして我々がマーシーが登壇して、昔取った杵柄で彼ならではの依存症ネタを披露し、何度も会場の笑いを誘っていました。終盤には潮騒フォーラムの特徴でもある連合エイサーの演舞で盛り上がりました。今回は地道に練習に励んだ潮騒女性ハウスメンバーの活躍が光りました。最後には栗原センター長が謝辞に立ち、15年間の隔たりを超えてフォーラムに参加した家族と入寮者の紹介とともに、潮騒フォーラム初参加の次女も登壇してセンター長に花束を贈呈する感動的な場面で締め括られました。

潮騒JTC 11周年フォーラム

最後の“父と娘のスピリチュアルな繋がり”場面は圧巻

今回初めて潮騒フォーラムに参加させて頂き、私なりに「経験」「継続」「感謝」を肌で感じられました。仲間内の役割としては、ビデオカメラ2台の撮影だったのですが、なんと午後の部で数分間、居眠りをしてしまいました。とても恥ずかしい出来事なのですが、同じ広報部のフジさんがそれに気づいてくれて、バッテリー交換、アングル調整など経験を生かした対処によって助けてもらい、改めて仲間のたくましさを感じました。

フォーラムには東京から母も来てくれて、昼休みのひと時、久しぶりで親子の対話をしました。母は「あなたが今までに苦しかった経験を生かし、仲間の手助けをさせて頂けることの一つが、このフォーラム、そしてプログラムなのね」と安心した様子でした。こんなアホな息子だけでも、笑みを浮かべた母の表情を傍らで目にでき、とても嬉しかった。

この日のプログラムでは、仲間が参加している鹿島灘太鼓、エイサーの演舞に継続の凄さを目の当たりに出来ました。そしてフォーラムの締め括りの場面では、栗原センター長の娘さん(次女)が初めて潮騒フォーラムに参加してくれて、センター長の謝辞の際には花束を持って壇上に上がって「許すとか許さないではなく…(中略)…今、私は父のことをとても誇りに思います」と話して、センター長に花束を贈りました。会場の皆さんも、あの場面には深い感動を覚えたと思います。

“父と娘のスピリチュアルな繋がり”—それは、この日のフォーラムを通じて私に手渡された神さまからの贈り物に思えました。もしかして会場の皆さんも同じ気持ちになったのではないのでしょうか。(ブーちゃん)

これからもリーダーのヒトシに付いていこうと思った

施設にきて12月で4年となりますが、これほどの大役(フォーラムでの案内係)をするとは思っていませんでした。まあ、いつもはマイペースで自由に過ごしているので、とても緊張しました。センター長に「案内係は施設の顔だ」と励まされ、私も所属する農業隊リーダーのヒトシには勝手に決められましたが、どうにかこうにかやり遂げました。

農業隊のユウちゃんが傍にいてくれたので、すごく気を使わせてしまったところが自分にとっての反省点です。それを差し引いても、フォーラムではみんなが一つの輪に

なれたことが実感できました。農業隊のテーマとして、よくヒトシが「自分たちは決して真面目ではないけど、遊んでいるのではなく、ふざけている」と言う通り、ふざけているのかなあって…それは農業隊だから通用しているのだと思います。

毎回思うのだけれど、ヒトシという男はリーダーなんです。が、作業している時は本当にふざけています。でも何故か、太鼓をしているときはニコニコ顔です。今後もこの男に振り回され、面倒くさいことは(自分達メンバーに)ブン投げられながらも、この仲が続く限り、付いていきたいと思います。(ボッシー)

少しパニックになった私を仲間の言葉が救ってくれた

今年もこの季節がやってきました。第11回潮騒フォーラムの開催です。私は5回目の参加で、今年も弁当係です。ほかにも補助係で接待を任されました。昨年、弁当を当日販売したために受付と食堂が混雑して大パニック!に。その失敗の克服を課題として、今年は、お客様には予約販売のみで対処し、受付で引換券を渡すことにしました。半券の方は私が持っています。11時から入寮者に順番に食べてもらい、用意していたお客様の弁当とお茶は、ほぼスムーズにお渡しできました。でも、時間に余裕ができ、ほっとしたのが落とし穴でした。午前の部終了と共にお客様が一気に押し寄せ、少しパニック!でした。相席になってしまったり、座れなくて待たせてしまったり、中には文句を言いだすお客様もいました。私にハンディがあるため混乱しました。そんな中、仲間の言葉に救われました。「ツカさんは、そこで指示を出していればいいんだよ。俺たちはツカさんの指示通りに動くよ」と仲間が動いてくれました。感謝です。でも接待の方といえば、職員の金子さんに任せきりで、何もできませんでした。入寮者の出入りの目配りすらできません。これが一番の失敗点で、来年の課題となりました。

今年のフォーラムを全体的に見ても、スムーズに行われたのではないのでしょうか。年々よくなっていると私は感じます。失敗する分経験になりますから…。当日のプログラムですが、私は最後にまた泣かせてもらいました。女性エイサー隊の歡喜の涙、両親と15年ぶりの再会を果たした仲間、そしてセンター長の娘(次女)さんとの感動の「私はどんなに辛くても決してグレませんでした。一生懸命頑張りました。でも私は父を誇りに思います」。涙でステージが見えませんでした。(ツカ)



「おらげのかまど」で 300食の お弁当づくりに頑張った

私は和太鼓もエイサーにも参加はできませんでしたが、潮騒食堂「おらげのかまど」での朝のお弁当づくりを頑張りました。体調不良の中、フォーラムの裏方にまわられて光栄でした。300食のお弁当づくりの後、潮騒JTCのフォーラムの会場に向かいました。会場では和太鼓の演奏が始まっており、迫力あるステージに感動しました。

各種専門分野の方々のメッセージや講演、講話はとても勉強になりました。私の場合アルコール依存症の方の話が印象的でした。私の経験と被るところもあり、何度事故を起こしてしまっても、こうして生かされてもらえているという話は、私の経験と全く同じです。最後にセンター長の謝辞もとても心に響きました。潮騒JTCの関係者の皆様方、本当にご苦労様でした。(マコ)

経験を重ねてきた仲間達と一緒に エイサーの舞台に立てた

今回のフォーラムでは、早朝の準備段階から携わりました。まず「かまど」へ行って、お弁当づくりをしなければならなかったからです。でも、私はこうしたイベント事の準備に関わることが好きです。自分の気持ちがどんどん、その行事に向かって高まっていくのが心地よく感じられるからです。私にとって、この日は大舞台で、エイサーの演舞ができる初めての日でもあったので、気持ちはとてもワクワクしていました。当日のプログラムでは“フォーチュンクッキー”を踊ることが先でしたが、ライトを浴びて舞台に立って踊るといのはとても気持ちの良いものでした。

そして午後3時半過ぎにようやくエイサーの出番となって、私は1曲だけでしたが、始めてまだ2カ月そこそこなのに、経験を重ねてきた仲間達と一緒に舞台に立たせてもらえたことは、何とも言い難い幸せ感で一杯でした。他のダルクの方々も加わって、大人数でのエイサー演舞はとても迫力あるものでした。今回のフォーラムで、私は入寮以来2カ月ぶりに会場に来てくれた母に会えたことは、私にとってもものすごく嬉しいことでした。終了後に「かまど」で母と食事をしながらいろいろと話が出来たこともまた、何とも嬉しいことでした。

去年はニューズレターを読んで想像する長ことしかできなかった自分が、今年は実際にフォーラムに参加できたのです。私の中で様々な感情が行きかったこの11周年

フォーラムは大変意味深いもので、とても有意義な一日だったと思います。こういった事に関われるようになったこと、出会えた人たちと縁があったことなど、「これがハイパーパワーなのね…」と母が言っていたことが、強く心に残りました。(くま)

施設長の配慮で母とホテルに 一緒に泊まることができた

今回のフォーラムにはうちのお母さんが来てくれて、親子でフォーラムに参加ができてとてもよかったです。でも、何よりも残念なことは私がエイサーをやめてしまっていたので、エイサーをやっているところを見せてあげられなかったことです。ほんの少しだけでも、私もエイサーをやっていたことがあると話しました。お母さんはとても感動して泣きながら見ていました。女性のメンバーで踊れなかった曲があったんだけど、なんとアンコールで踊ることができて、それを見ていてとても感動して涙が止まりませんでした。とても頑張っていたと思います。よかったです。

そしてセンター長と娘さんの話もとても感動的でした。自分のお母さんのこととダブらせながら、聴いていて泣いてしまい、胸が詰まる思いでした。今年のフォーラムは、施設長の配慮でお母さんが泊りがけで来てくれて、ホテルと一緒に泊まることができました。ホテルからきれいな夜景を見ていろんな話が尽きなくて、「とても幸せだ」ってお母さんが言ってくれて、とてもいい一日を過ごすことができました。これもセンター長と施設長のルミさんのおかげです。とてもいい親孝行ができ、今から埋め合わせができるようになりました。また来年のフォーラムが楽しみです。(いるか)

エイサー「地球兄弟」演舞に 女性メンバーの思いが集約

潮騒ジョブの11周年フォーラム。私はまず300食の弁当作りに励み、次いで会場ロビーでクラフト作品などを販売、そして、お待ちかねの“フォーチュンクッキー”、サブプライズで踊ると決まり、練習を重ねてきました。潮騒サポーターの瀬戸さんがプロ意識を全開で作り上げたプロモーションビデオ、皆可愛く、かつこよく、一言でやっぱりプロですね。恥ずかしい気持ちよりも、目立ってやる一つて気持ちが強く、ルミさんと一緒に練習したんだけど、完コピしてみました(笑)。何しろルミさんは、自



潮騒JTC 11周年フォーラム



分が一番うまく踊れると自信たっぷりでしたから…。

私はこの2か月間、もう一つ練習しました。エイサーです。なかなか上達できず、フォーラム5日前には1度やめようと思いました。けど、フォーラムのために練習してきたし、フォーラムまでと勝手に決めた5日前、次の日、起きたら後悔して、やっぱりそんなことは考えないと決めて、続けようと思い直しました。そんな中、曲と踊る人の発表があり、「地球兄弟」(注・エイサー演舞曲目の一つ)で女性の仲間の一人が出番の見送りになってしまい、その仲間に何て声をかけたらいいのか、ルミさんに連絡している私がいました。アドバイスをもらい、夜9時頃、仲間の部屋を訪ねて、「次の演奏には出られるように練習しよう、一緒に練習付き合うから」と言いました。仲間は「かこ、ありがとう!」って何度も言ってくれました。

本番の時、違和感がありました。女性たちが「アンコールがかかったら何やるの?」って聞いても男性メンバーは誰も教えてくれない。「分からない」だの「アンコールがかかるとかも分からない」…等々。「まあ、教えてもらえないってことは、私たちが踊る曲ではないね」って言いながら本番です。練習してきたことを全部出し切りました。そして、ルミさんの声が聞こえました。「アンコール」って。そしたら会場の皆さんが続いてアンコールをくれて、私が舞台袖にとにかく行こうと思ったら、潮騒メンバーだけで「地球一」をやるという話になりました。つい先ほどの「地球一」には出てなかった仲間は、頭が真っ白で何を言っているのか分からなかったようです。でも、泣き出す仲間も一緒に、嬉し涙をこらえながら、最後に「地球兄弟」を踊りました。女性メンバーにマイクがまわり、頭が真っ白のため仲間が何を言ったのかははっきり覚えていないけれど、親にアピールしてたので、私も負けじと、「ユタカパパ」「ルミママ」ってマイクに向かって騒いだような気がします(笑)。

最後に、栗原センター長と娘さんの話を聞きました。お互い歩み寄ってる話に心打たれました。これにて終了の時、見覚えある人が…。散々迷惑を掛けてる、私の担当の福祉さん(担当行政の福祉事務所職員)が近寄ってきました。来てくれたありがたさと、「午後いちで来た」と聞き、エイサーを見てもらえたんだって、頑張っている姿を見せることができた、とホッとしました。しかし“フォーチュン”も見られたのかなって思うと、ちょっと恥ずかしさもあります。

色々な家族や支援者とも顔を合わせるたびに、「フォーラムよかったよ!」って言われます。この感動をずっと心

に持ち続けていたいと思います。11周年フォーラム、最高でした。(かこ)



夜片付けが終わるまで一日中「かまど」で準備に追い回された



フォーラムの日の朝は早い。私ともう一人の仲間は普段「おらげのかまど」で仕事をしているため、300食のお弁当とフォーラム終了後の食事会の用意を、朝8時から、夜片付けが終わるまで、一日中「かまど」でオードブルづくりなどに追い回されていました。要するに、潮騒JTCの第11回フォーラムには行っていない。皆の“フォーチュンクッキー”のビデオも、エイサーも観ることが出来ず残念でしたが、皆のフォーラムの下支えができたのだと自分では納得しています。かまどのメンバーの皆さん、お疲れさまでした。(しま)



母と父に私の踊るエイサーを見てもらいたくて頑張ってきた



私は今回が初めてのフォーラムでした。どんな感じが想像していましたが、思っていたものよりも感動的でビックリしました。私は、フォーチュンクッキーとエイサー、それから「ひだまり手作りコーナー」の方にいたので中の様子はモニターTVで見ました。和太鼓には感動しました。会場のホール内で生を見れたら、最高だなと思いました。

それから、すぐに私達が作ったお弁当を食べ、フォーチュンクッキーの準備に入りました。約2か月前から練習し、撮影し、サプライズ登場という流れ…。撮影はとても緊張しましたが、とてもいい思い出になりました。瀬戸さんに感謝しています。ありがとうございました! お疲れ様でした!

エイサーではとても感激することが、起きました。私は「ミルク」、「年中」、「Gトビ」の3つしかできなかったのです。「地球兄弟」もたくさん練習しましたが、「フォーラムでは出れない」と悔しい思いをしていました。…が、なんと、ルミさんはじめ男性メンバーの心遣いで、まさかのアンコールで「地球兄弟」を踊ることが出来ました。あまりの嬉しさと驚きに泣いてしまいました。一緒に練習に付き合ってくれた仲間も涙を流し、喜んでくれました。

母と父に見てもらいたくて、頑張ってきたエイサー。当日、父は16歳になる愛犬「イヴ」の面倒を車で見ていたため見られませんでした。母がしっかり見てくれていました。父、母に会うのも8か月ぶり…。愛家のイヴに会う



のは1年ぶり…。イヴとはもう会えないかもしれない…と思うと淋しくなりましたが、たくさん撫でてあげました！

初めて参加したフォーラム。とても「仲間」に感謝の気持ちを伝えたくなった一日でした。(なあな)



SJTC11周年フォーラムに参加して

ここに繋がって2度目のフォーラム。去年は、ただただ見る側の私でした。両親にとっても2度目のフォーラムとなり、こんな私を見捨てずに足を運んでくれた両親に感謝しています。朝から「かまど」で300食のお弁当作りが始まりました。10人以上で取り組みました。私は途中で抜け、この日のために皆で作ったクラフト作品の、フォーラム会場での販売に転じました。手に取り熱心に見てくれ、買っていく支援者方の中に両親を見つけ、笑顔で手を振りました。

午後一番でDVD放映、「フォーチュンクッキー」のサプライズダンス、ステージから両親を見ると苦笑い。こんな私を見せたことがほとんど無かったので驚いたと思います。恥ずかしさよりも、生きている私を見せたくて、自然と笑顔が出ました。最後のエイサーでは、全力で踊り、両親をステージに呼び、「カチャーシー」をしました。涙でぐちゃぐちゃの私でしたが、仲間たちと取り組み、皆で踊れたステージ、本当に嬉しかったです。見る側だった私が、今年は少しだけ見せる側に。変わりたいと願う私が、少しだけ変わった一日でした。

何より、私を産んで育てて、叱って見守ってくれた両親に、心から感謝出来ています。仲間、家族と繋がって私は生かされているんだと、実感できた一日でした。素晴らしい一日と贈り物を、神様、ありがとうございました。(めい)



エイサーで盛り上がっていた様子に私は音だけで満足した

潮騒ジョブトレーニングセンターの第11周年フォーラム。私は3回目なので、どういう雰囲気なのかとか流れはある程度知っていたので、今回は裏方に回りました。クラフトのバッグとカゴとポストカードを売るのに、受付のすぐ前でお客様の対応をしていました。もちろん生で変装した“フォーチュン”やエイサー、マーシーの話も聞きたかったけれど、新しい仲間と思う存分フォーラムの素晴らしさを味わってもらいたかったので、裏方に回り、知っている人たちも結構いたので、(売りつけて)買って

いってもらいました。みんな、エイサーで盛り上がっていたようで、音だけで私は満足しました。

かまどで料理を作っている仲間、エイサーで本領を発揮している仲間、それぞれでしたが、無事に終わり、ホッとしています。これからもクリスマスに向けて日々練習をして行きたいと思います。(みく)



仲間が頑張っているのにスリッパして参加できず辛かった

私は何日目か前に、緊張と出られなかったらどうしようとか、絶対行ってみんなと同じことをしたい、という思いで複雑でした。でも朝すんなり起きられて、気持ちよくみんなの中に入り、お弁当づくりができました。簡単な作業かなと思っていたら、結構大変で、でもみんなで何かをするってことで、こんな私でも出来るんだな、と自信にも繋がりました。

フォーラムも私にとって初めての行事だったので、すごく感動しました。でも当日、仲間がみんなで作ったものを売る時に、私は万引きをして酒を飲んでしまったために、仲間が一生懸命売ったりしているのに、私はできませんでした。それが一番切なく、辛かったです。来年のフォーラムには、今年の失敗したこと、今年出来なかったことが出来るようになりたいです。(ゆうこ)



マーシーさん、またのご来店心よりお待ちしております

11月27日に鹿嶋勤文で盛大に行われた潮騒11周年公開フォーラム。私と仲間の一人は「おらげのかまど」にて料理の準備に追われ参加できませんでしたが、その後の打ち上げには、日本ダルクの近藤恒夫さん、栗原センター長、そしてあのマーシーさんはじめ、施設長のルミさん、エイサー隊、そして女性陣…。手間ひまをかけた料理を堪能していただき、「おいしい？」という声に疲れも吹き飛びました。

アルコールに溺れていた過去の自分には想像もつかない心地よい疲れと達成感を思う存分味わうことができ、改めてこの施設に繋がれたこと、仲間に出会えたこと、自身の回復を続けられることに、感謝しています。最後に仲間と二人でマーシーさんに握手を求め、快く受けてくれたマーシーさん…またのご来店、心よりお待ちしております。(れいこ)



フォーラム最後の父娘の言葉に栗原さんの偉大さを見た

～ マイナス体験の大失敗を隠さずに次世代に伝えていく行動力～

今回の潮騒 11 周年フォーラムは全体的によいイメージでした。講話とパフォーマンスの調和も取れていたように思います。また、リレーメッセージは7人のコメンテーターで良かったと思います。AKB48 の「フォーチュンクッキー」の踊りのDVD作品の上映と、続くパフォーマンスでの生のセンター長の学生服姿も新鮮でした。栗原センター長は仲間を救い、助け、支え、許し、分かち合い、受け入れられているということを実感した一日でした。

そして女性アディクト達の達成感と感謝の涙はとても美しかったです。また、家族との久し振りの再会の涙とことばに涙し、私の心の中の渚も浄化されました。近藤氏(ダルクの主)の話や田代氏のキャラクターも一個性として、ダルクや潮騒や、また社会に対し、クスリやアルコールの依存症を広く世間に知らしめるためには必要な要石になるように思います。更生だけでなく回復、つまり依存症は病気ということを、広く広告しているからです。

最後は栗原センター長の話でした。子供(幼児)にとって、両親は、人間として、社会人として育つ最大の見本です。その父を戦争で奪われ、若き母親には再婚で離れられ、幼児は支えを失った風船のように、危うい存在となってしまいます。そして子供なりに、生きるために、自分で自分を守るために、鎧を身に着けた兵士のように、他者を倒しながら進まざるを得ない、そして非社会的あるいは反社会的な穴に落ち込み、もがきにもがいた栗原センター長の悲劇、受難(パッション)…。

その結果、家族もパートナーも子供たちも、その余波をかぶり、「よい思い出は何一つなかった」「父を許すことはそんなに簡単にはできない」「そんな単純なことではない」「子供の頃、感情を直ちに表すことができず」「先生から変だと言われた」「アル中・ヤク中の父を持った家族は悲劇」などの言葉はとても重いものでした。「でも、そんな父ですが、今こうして人助けの救済活動に、全身全霊で取り組んでいる父を、仲間の皆さんから支えられ、愛されている父を今は誇りに思う」。また、(父はグレたけれども)「私はひどい目に遭ったけれども、私(次女)はグレなかった」と栗原センター長の次女は本音で語ってくれました。

これに対して栗原センター長は「自分の、この大失敗を(現在、学んでいる夜間高校の)クラスメートの、孫のような彼女達に語って、薬物やアルコール依存症の恐ろしさ、悲惨さ、家族崩壊の悲しさ、辛さを伝えたい」と強調しました。その言葉は当事者としての、心の叫びと深い祈りを感じました。このような大きなつまづきなしに、われわれ人間は、本当に大事なく何か>に気づけない存在です。でも、栗原さんの偉大さは、それらの大失敗を隠さず、それを次世代に伝えて、自らのマイナス体験を活かし、プラスに転じる行動力にあると言えます。そこに大きな救いがあり、反省があり、救済の原点があるように思います。

人は人を許すことは難しいけれど、神仏はそのような弱い人間を許し、つまづきに気づき、心を改めた者には大きな力(パワー)を惜しみなく与えるように思います。本当に感動的なフォーラムでした。(白田美鶴＝詩人、茨城町在住)



▲クラフト作品の販売に励む女性ハウスメンバー



▲練習の成果を発揮した女性メンバーのエイサー演舞



▲疎遠だった両親もフォーラムに参加し、見守った



▲次女のメッセージに、栗原センター長も深い感動

受刑者からの手紙

目標を立てた人生のレールの上をしっかりと走りたい

先日当所でも運動会が行われました。短期間でありましたが、気持ちよく大声を出し、ストレスを発散して「ハッスル、ハッスル」することが出来ました。そういえば潮騒通信でも以前に、栗原センター長が「我が俳句の歩み」の中で、かつて堀の中での運動会での苦い体験を述べられていましたね。同じ工場の仲間達を応援したのはいいとして、つい応援し過ぎてその声援の掛け声が問題視されて等級を下げられたという失敗談でした。世間の感覚からは“ご愛嬌”で済んでも、ここでは問題になってしまうんですね。

さて、先日送って頂きました潮騒通信には栗原センター長の故郷での凱旋体験等が書かれてあり、私もとても興味深く拝見させて頂きました。生家跡や養家を訪ねられ、講演会場前では栗原センター長を挟んで移っている写真に、ユウキ様のお顔も拝見出来ました。正に最高の笑顔でした。本当にセンター長の記事は良かったです。苦しい事も我慢し、一步一步積み重ねていけば、このような素晴らしい出会いもある事を学んだ日でした。

私も己の“スゴロク人生”を、目標を立てしっかりとしたレールの上を走りたいと思います。もし落ちそうになった時には、皆様の力で脱線しない生活を走っていきたい、と思って居ます。社会に出て、揺るがない考え方を少しでも身に付ける努力をしたい気持ちです。北海道は寒さが厳しい日々が続きますが、関東地方も本格的に寒くなりますので、風邪等、ひかぬ様にご自愛下さい。(北海道 I・Y)

人生の残り時間を薬物を止めて新しい生き方をしたい

潮騒通信に登場されている受刑者の方々と同様に、御多分に漏れず私も何回も薬物事犯で捕まり、今にいたる身です。今まで回復支援施設にお世話になった事はありません。薬物事犯の繰り返して、今の年齢になってしまいました。薬関係、私の周りがどうかではなく、単に自分の意志が弱く、服役する結果になってしまったのでは、と自覚しています。私も年ですし、今回組関係とは一切手を切っています。大して望むべくもない残りの人生だと思って居ます。こんな私ですが、残り時間を薬物を止めて新しい生き方を出来るのであれば、何とかして薬物に振り回されない新たな人生を歩んでいきたい、と本気で思っています。こんな私ではありますが、センター長の栗原さんがこちらの方に来る用意がある時、話を聞いて頂ければ幸いです。簡単ですが失礼致します。(東京都 S・F)

与えられた矯正処遇の3目標に向かって努力している

潮騒ジョブトレーニングセンター11周年フォーラムの開催おめでとう御座います。フォーラムでは、映像による潮騒の活動紹介やマーシーのメッセージ等のプログラムなど多彩な企画があり、堀の中にいる私も参加したいと思いました。

さて、私が当所に来てから今日で丁度1年4カ月になりました。私なりに、しっかりと頑張っております。私には当所で与えられた矯正処遇の目標が三つあります。①薬物の危険性や害悪を理解させ、薬物使用を断ち切る決意を固めさせる ②健康を意識した生活をさせる ③正しい社会規範を認識させ、健全な生活習慣を身に付けさせる—以上の三つです。どれも私にとっては大切な事であり、今はこの三つの目標に向かって努力しております。栗原センター長には今後も今以上の御指導の程、宜しく願い申し上げます。センター長はじめ皆様の御健康を心からお祈り申し上げます。(長崎県 H・S)

ダルク関係者の参加が不可欠となり、アスカ再逮捕を報じるメディアの姿勢が変わってきた。もはや勧善懲悪では埒が明かない現実に目が向き、依存症の視点が加わり、50歳以上では80%を超える覚醒剤事犯の再犯率に言及するケースも増えた。それだけに、受刑者の手紙にある悲痛な叫びに耳を傾けてほしいと願う。有名であれ無名であれ、覚醒剤は人を選ばない。堀の中には学ぶべき素材が山ほどある。(がん太)

今の私は潮騒ジョブさんと繋がりを持てた事が物凄く嬉しい

栗原豊センター長、これからの私の事を真剣に考えてくれるのだと思うと嬉しくなると同時に、心強くなりました。自分自身の断薬についても今の気持ちを忘れずに取り組んでいこうと思っております。私が潮騒ジョブトレーニングセンターに行きたいという気持ちは変わりません。今迄の自分を思い出してこれから先の事を思う事、これこそが今は一番良い方法なのだ、と思っています。1年間のプログラムを受ける事、それも自分にとっては一番大切な事であり、それを受けられるのであれば、そうしたいと思います。

ところで引き受けの件ですが、年が明けて母親に話してから、潮騒ジョブさんの方で受け入れて頂けるのであれば、そうしたいのですが、如何でしょうか？今の私は潮騒ジョブさんと繋がりを持てた事が、物凄く嬉しいです。栗原センター長、フジさん、これから先も私に対して色々と指導をして頂ければ本当に嬉しい事です。宜しくお願い致します。お二人とも九州、福岡の方に来た事がありますか？関東の方では、九州は南国だと思って居る人もいと聞きますが、福岡は雪も降るし、とても寒い所です。当所も山の中腹にあるためか特に寒いです。今現在、工場では風邪が流行っていて、私自身もすぐに風邪を貰ってしまうので、とても憂鬱な気分です。皆が「今年の冬は特に寒い」と言っている、私も気合いを入れて務めなければ、と思って居ます。まあ、気合いでどうにかなるものでもないですけどね(冷や汗)。それでは、またお手紙を書きます。断薬の気持ちを強く持って務めていきます。

(福岡県 T・K)

自分では新しい環境を選んだつもりが何も変化せずに…

同封して頂きました資料や潮騒通信を読ませて頂きました。年齢も様々、皆様の生活して来た環境も様々だと思いますが、自分と向き合い、同じ目標を持った仲間達と日々、支え合い、前を向いて生活して居る文章や写真には私の気持ちは物凄く動かされます。

ユウキさんの手紙にも有りましたが、薬物を止めたいという気持ちを持ち続ける事ですが、これまでの私は社会復帰をしたものの、自分ではクスリを止めたいとは思っていても目の前に覚醒剤を出されれば我慢出来ずに使ってしまいましたし、その仲間ともう再会しないように地元を離れて生活してみたりもしましたが、毎回そうしたスクリに繋がる人間関係作りを自分で選んでいるつもりが無くても、不思議な事にいつの間にか周囲に覚醒剤を使った事がある人が現れてしまいます。そうすると、どちらからと言わず、「薬を打つか…」という流れになります。自分では新しい環境を選んだつもりが、何も変化せず、元の木阿弥です。そうすると薬を使用する日々が続くようになり、逮捕される時間も早くなり、出所してもまた直ぐに刑務所へと続く道のりになってしまいます。この悪循環から何としても抜け出したいのです。

そのためには自分の気持ちや努力が大切だと思います。潮騒通信の中にも受刑者の方々の話が掲載されていますが、皆さんも私と同じく出所後の自分を考えると不安が多いようで、薬物依存からの回復が一番に願っているのが切々と伝わってきます。では自分が今どうしたいのか—と考えるとやはり、薬物依存からの回復をする事が一番に行動すべきものだと思いますので、出所後に潮騒JTCに入寮したいと思っております。

出所までは1年以上ありますが、仮釈であれ、満期であれ、どちらにしても入寮させて頂きたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い致します。こちらでは雪の日もあり零下の予想気温がTVの天気予報でも出て来る様になりました。関東地方もこれから秋から冬へと季節も変わりインフルエンザも流行すると思いますので、皆様も体調には十分ご留意なさって下さい。

(北海道 S・K)

しおさい、俳壇

12月のお題

初霜

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.35

センター長 栗原 豊

季節は早くも師走。気がつくくと本連載も35回目、私を回復に導いた姪に宛てた手紙を素材にした連載が、こんなに長く続くとは思ってもみなかった。塀の中から発信される情報を世間に晒すのは気恥ずかしいが、私達アディクトは「恥をかいただけ回復できる」のだから、この連載もそれなりに意味がある？と勝手に自負している。たわいのない内容だとしても、何かの役にたつのならば恥さらしのプライバシー公開にも少しは社会的な意義があると言うべきか。書いた本人が言うのも変だが、今でも手紙の中身にはリアリティーを感じるし、ある種の郷愁も抱く。

もともと私が7回目の刑務所生活を終えて出所してから、既に13年が経過している。当時と比べると、塀の中の暮らしの様子はある程度変わっているのかもしれないが、私と文通をしている受刑者の皆さんの手紙を読む限りは、あまり変わっていないような気がする。ただ、社会の方の事情は変化が著しいので出所する仲間の皆さんは、いろいろと苦労は多いようだ。薬物やアルコールを依存症に起因する事件に絡んで刑務所務めをしている人には朗報？もある。刑の一部執行猶予制度が今年6月に施行された事で、受刑者に対するケアの流れが少しずつ変わることが期待されるからだ。苦しい国家財政の事情が背景にはあるとしても、これが依存症を病むヤク中アル中の受刑者にとっては社会内処遇に道を拓く先鞭となつてほしい、と回復施設を運営する責任者として密かな期待を持っている。何しろアディクトに第一義的に求められるのは、刑罰よりも治療と回復の場なのだから…。

さて、今回もひと足早く正月(1月4日付け)の私信から一。

初風呂や背(せな)に真っ赤な金太郎 | 初風呂の湯気にシャボンの隣る人

刑務所でも三が日までは特別に正月らしい食事が楽しめました。そして昨日三日は入浴剤のバスクリンのお風呂に入りました。この風呂は5、60人が入れる大浴場です。裸になると三分の一ぐらいの人がなんらかの彫りものをしているので華やかです。腕に彼女の名前だけの人から、首から手首足首まで全身彫りものを入れている人まで様々です。出所三か月前になると髪を伸ばすことが許されるので、先月末より髪を伸ばし始めました。だんだん婆婆人の恰好に近づいています。以上、簡単に近況報告まで。

鉄格子湯気立ち登る雑煮かな | 悲しさは寒星囚ふ鉄格子 | 寒月の照らす暈のほつれ跡

吐く息と
初霜庭の
白の朝

特選句

しま

日本列島は南北に長いので時期は異なるが、関東では十月半ば頃には初霜になる。農家の被害も予想されるが、いよいよ冬を思います。吐く息も庭の霜も白く少しのユトリロの世界も思い、息に実感の句です。

朝霜の

ごとく消えゆき

初恋も

特選句

ともゆき

初恋は人により年齢も大差がありますが、中学や高校生の頃が多い。時代により形は違っても、初恋は青春の大切な記念の一つ。霜には身の引き締まる思いがあります。霜の日は晴天が多くすぐに溶ける。初恋も実らぬことが多く淡い思い出となる。切々とした句です。

母と子が

手を擦りあふ

霜の朝

特選句

こば

霜は晴天の日が多く、その朝は雪より寒い思いがします。また霜には、濃霜、はだれ霜、霜の花、青女、霜の声などの呼称があり、夫々に人生の思いにも繋がります。その霜の朝、親子が手を擦り合うのも微笑ましい句です。

※青女(せいじよ)＝霜や雪をふらすという女神。転じて霜や雪

今月の秀逸句

初霜の
田畑踏みしも
子の日かな

かこ

子供の頃は雪や霜、霜柱など踏んでみたくなるし、水溜りなども入りたくなる。田舎の通学時など畑や畦の霜を踏んだり、雪飛礫を投げ合ったりして通ったものです。今はバスなどの通学が多く故郷を思う懐かしい句です。

初霜を
踏むや幾くたび
我の悔ひ

ゆうこ

初霜にはいよいよ冬を迎える思いと、歳も老いの近いを感じるのがあります。今年も霜の時期になり残す月日も少なく省みる事が多い。何度も自分の人生を悔いる。しかし過去を棄て、今を生きるしかない。初霜の道を行きながらの回顧の句。

湯たんぽと
猫の恋しい
霜夜かな

あべ

子供の頃は外では犬、家では猫と遊び、寝るときは布団の中で共に寝て暖かい思いがある、また電気行火(あなか)の無い頃は湯たんぽを使った。湯婆と書くのも頷ける気がする懐かしい句です。

初霜に
朝の歓声
通学路

みく

雪や霜の日は寒いが、子供達には珍しく、早く起きて庭などを歩いて見る。通学路の初霜に子供達の声も元気で明るく、時には歓声も聞こえる。小学校の頃の里が懐かしい句です。

山里の
軒に干したる
薩摩芋

アオ

薩摩芋は名の通り沖縄から薩摩に伝わり江戸時代に米の代用品として飢饉の飢えを救った。青木昆陽、井戸平左衛門などがその繁殖に尽くしたのも知られる。今でも田舎などでは大根、柿、薩摩芋などを軒に干す懐かしい句です。

産廃の
山また山の
草紅葉

ゆたか

近代文明の問題の一つに塵があり、その処理の施設や労力に膨大な費用を要する。先の大地震での廃棄物は、まだ完全に処理出されず被災地で山となり草木も生えている。秋にそれらが紅葉しているのも哀れを誘う句です。

佳作

初霜を小さな足で踏む子かな めい

初霜のニュース思ふ故郷かな ひろ

霜柱踏む音ひびき通学路 まこ

初霜や啄木の詩唇に あべ

初霜の今朝の身に沁む寒さかな いるか

初霜に今朝は真白き小庭かな ゆき

初霜に時の移ろひ思ひけり れいこ

初霜や遠見に今朝の筑波山 こば

初霜の冷えに立ち居の身の締まる くま

さくさくと踏みしめ進む霜柱 おの

初霜の間に覗く草花よ みく

分け入りて分け入りてなほ霧の街 ゆたか

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第3回

17歳の時には足首が腫れる身体的なシグナルが

級友の間で“いじられキャラ”を演じ、学校に自分の居場所を見出せなかった僕は、アルコールの酔いでかろうじてバランスをとっていました。そして自分の出生の秘密を知るに至り、ますますアルコールへの依存度が深まり、やがて2年で高校を中退。でも僕は、中二の時から日曜日に倉庫でのアルバイトで小遣い程度を稼いでいました。半分は飲み代に、半分が学習塾代に充てていたので、高校をやめてもさほど抵抗感はありませんでした。「何とかバイトで稼げるんだ」という感覚から、20歳以上じゃないと働けないのに、「17歳でも黙っていれば分からないから」と言われてパブでウェイターをしたりしながら、その日暮らしを続けていました。

その後暫くは5種類のバイトを転々としていました。酒がもとで仕事を休んだりしてクビになったからです。だんだんと酒量も増えてきましたが、当時はバンド活動を続けていた関係で大学生達とも知り合いになり、「俺んここで酒飲んでいいから」と学生寮に転がり込んだりしていました。そんな風だから「サラリーマンになってまともに働かなくてもどうにか酒が飲めるんだ!」という感じでした。もちろん親には迷惑を掛け続け、何度か家出も繰り返しましたが、義父は何も言いませんでした。ただ母はとても心配していたことを、後で祖母から聞いて知りました。とにかくその頃は酒で生活が荒れていくばかりでした。

振り返ると、飲酒開始が早かった僕の場合は身体的な予兆みたいなものは17歳頃からあったように思います。ある時、足首がぱんぱんに腫れて青紫色になり、歩行困難で学校へ行けなくなったのです。掛かり付けの内科医からは「まるでゾウの足みたいじゃないか」「未成年だからこういう風になるんだよ」「子供なんだから酒なんか飲んじゃダメだ」と強く諭されました。やはり大人と違って子供にはアルコールの影響が体に強く出てしまうようです。そうした形で身体的なシグナルは出ていたけれど、体力的に若かったので、いくら飲んでも寝ればすぐに回復して、また翌日には普通に飲めちゃうし、仕事にもいけちゃう生活でした。危ういながらも何とか保っていたアルコールと生活のバランスが崩れ、自分ではコントロールできなくなったのは、もう少し時間が経過した30歳の頃なのですが、実は20代にもいろんなトラブルを起こしていたのです。その辺りについては次回に。(次号に続く)

12月のバースデー

くにまつ



51になりました。

おっきー



早く退寮するぞ!

かーと



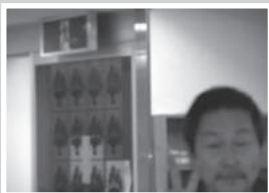
後2年で70です

すみお



考え中

よういち



ピース

とく



今日(12/3)誕生日です。

ひこ

ひこ米おいしいです。。
(周りの声)

えん



年男です。

12月の行事予定

- 12月8日 潮騒俳句会
 12月10・11日 JAしおさい鹿嶋感謝祭
 12月11・17日 秋元病院メッセージ
 12月18日 潮騒家族会
 12月22日 潮騒ボウリング大会
 12月25日 潮騒クリスマス
 12月28日 年末恒例潮騒餅つき大会

1月の行事予定

- 1月1日 息栖神社鹿島灘太鼓の初打ち
 1月4日 鹿島神宮初詣・新年初顔合わせ
 1月8・21日 秋元病院メッセージ
 1月22日 潮騒家族会
 1月29日 潮騒アディクションセミナー

献金・献品を頂いた方 (12月15日現在)

- ・武田志保 様 ・横堀 様
 ・K&G 企画 様 ・宮中グリーンホーム 様
 ・(株)トーマス 様 ・山田武郎・和子 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
 おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
 ありがとうございました。
 ※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただきます。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

今年は例年になく「依存症」がクローズアップされた年だったように思う。これを書いている段階(12月13日夜)でも、TV ニュースは拙速審議との批判が多い例のカジノ法案(統合型リゾート整備法案)について、ギャンブル依存症対策の強化を盛り込んだ自民党の修正案が参院内閣委員会で可決された、と報道した。参院本会議でも可決されるだろうから、これで同法案は成立する見通しだ ▼依存症という言葉が世の中に知られるようになったのは、言うまでもなくダルクの存在が大きい。このところの有名歌手や芸能人、元プロ野球選手らの違法薬物(再)使用事件では、これを報じるTVのワイドショー番組の多くにダルク関係者がコメンテーターとして登場し、「依存症は病気」を力説してきた“努力”は無視できない、と僕は考えている ▼潮騒11周年フォーラムでもマーシーは、「僕も最近はTVに出られるようになり、薬物事件でコメントを求められる」と打ち明けた。そして「(事件を繰り返してしまうのは) 根本に薬物依存症という病気があるから」「意思や根性ではやめられない」としつつ訴えているという。しかし、いざ本番になると肝心なその部分は編集でカットされ、予定調和よろしく番組の最後には「司会者が家族やファンのためにも、一日も早く更生してほしいとまとめる」と歯がゆい思いを語ってくれた ▼そう言えば、少し前に栗原センター長がワイドショーの生番組に出演した際、同じように「薬物依存症という病気」を何度も繰り返したのに、やはり最後の場面で進行役の役者(坊主頭の高橋克実だった!)が「どうか強い決意でやめてほしい」とまとめたのに対し、すかさずセンター長が「依存症は病気。意志ではやめられない」と絶妙のタイミングで言い返した。一瞬、画面が凍り付いた感じだったが、痛快な場面だった ▼建前はどうあれ、一皮むけばメディアも世間も薬物問題は犯罪でしかないようだ。依然として厳しい現実だが、近藤さんがよく言うように「依存症は家族のためにやめられるほど簡単な病気ではない」。だから「世界で一番愛おしい娘のためでも私は覚醒剤をやめられなかった」と話す栗原センター長だが、今回の11周年フォーラムには娘さん(次女)が初めて参加してくれて、「世界一」素晴らしいメッセージを届けてくれた。ありがとうございました。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2016年12号

Contents

- P② 2016 年を振り返って
 ～次女から家族問題で宿題を与えられる
 P③ 潮騒 JTC 11周年フォーラム
 P⑩ 受刑者からの手紙
 P⑫ しおさい俳壇「初霜」
 P⑭ どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」第3回

■ 編集・発行:

特定非営利活動法人
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田
 〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



